

1. キノコ観察会、開催要項

令和8年度 秋の自然観察会 ～京都御苑のキノコ～

主催 一般社団法人京都府山岳連盟

主管 自然保護委員会

京都の中心にありながら、四季折々の自然が息づく京都御苑。近年、トリュフの一種であるチャセイヨウシヨウロの発見に続き、コケ(蘚類)に寄生する日本新産種のホコリタケの仲間の生息が確認されるなど、キノコのホットスポットとして注目されています。秋の半日、一緒に散策を楽しみましょう。

【日 時】令和8年10月18日(日曜日)

【場 所】京都御苑 京都市上京区京都御苑

【集 合】午前9時30分 京都御苑 堺町休憩所前の広場

【行 程】堺町休憩所～キノコの発生状況をみながら京都御苑内を散策～堺町休憩所
正午ごろ解散

【講 師】北出雄生氏 京都御苑きのこ会世話役 関西菌類談話会会員

【持ち物】雨具、帽子、飲料、行動食、筆記用具、ループなど

【参加費】500円 (小中学生無料：小学生は保護者同伴のこと)

【申し込み】京都府山岳連盟ホームページ、申し込みフォームよりお申し込み下さい。

【締め切り】令和8年10月12日(月曜日)

【その他】雨天でも実施します。※但し、当日午前7時の時点で、暴風、大雨などの注意報、警報が発令されている場合は中止します。

2. 開催報告

【日 時】2026 (R8) 10月18日日曜、晴れ

【概 要】秋晴れの穏やかな天気のもと、府岳連山岳会関係者29名、一般参加者22名(子供6名を含む)、府岳連自然保護委員14名の総勢65名の参加者となった。講師には毎月開催されている京都御苑キノコ観察会の世話役である北出雄生氏を迎え、集合地の堺町休憩所から御所反対側の野鳥の水飲み場周辺まで、キノコを見つけ観察した。中には御苑では珍しいイカタケなどもあり、常連種のイボテングタケ、ツルタケ、チチアワタケなど約30種近くのキノコたちを俎上にあげ、解説していただいた。約2時間余りの観察ではあったが、キノコと樹木の関係や食可とあるキノコでも人によっては中毒を起こしたり、薬効のあるキノコ、世界最大の生物ナラタケの仕組みなど多岐にわたる説明に聞き入った。(※、長年続いた府岳連「キノコ観察会」は今回で終了である)

【行程図】



①堺町休憩所：集合、スタート



観察風景



②終了、解散地

参加者 集合写真



3. 観察詳細



①イボテングタケ… 20 cm 越えの大型。モミ、アカマツの付近。ツボとツバを持つテングタケの仲間と有毒。傘の表面にイボが多く、近年テングタケより別種扱いにされた。



②ニガイグチの仲間…ヒダではなく管孔を持つニガイグチ属。モミと共生する菌根菌。



③ニオイコベニタケ…アカマツの樹下。カブトムシ臭がする。
④ツルタケ…御所では多い。ツボはあるがツバは無い(写真無)



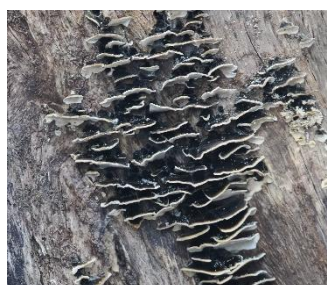
⑤ケシロハツモドキ…チチタケの仲間。傘の表面に微毛。傷つけると乳液を出す。



⑥チチアワタケ(イグチ科)…ヌメリイグチの仲間。アカマツ樹下、食可。乳液が出る。



⑦ナラタケ(広義)…食可だが人による。病原菌で木を枯らす腐生菌。世界一の生物(山一個分)、DNA で調査。近似種が多い。

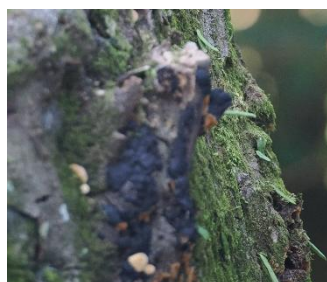


⑧カワラタケ…屋根瓦状にならぶ。煎じて民間薬として利用される。がんにも効く？



⑨サルノコシカケの仲間

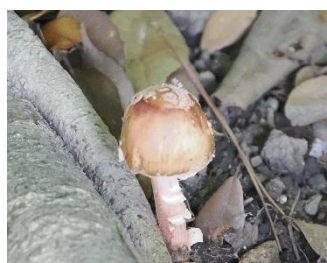
※、椿の花に黒い塊のツバキキンカクチャワンタケが 1～3 月に出る。



⑩クロコブタケの塊
シイタケの棺木にこれが出ると、シイタケは出ないとされる。



⑪サルノコシカケの仲間



⑫ガンタケ…かさに赤いシミを持つ。御所では希少。



⑬オニカワウソタケ…ウバメガシの樹皮の割れ目に多い。御所では希少。



⑭クロラッパタケ…菌根菌、ヨーロッパでは食べる。同科のアンズタケも御所には多い。



⑮ミダレアミタケ…かさの裏は針状の突起が覆う。



⑯ニクウスバタケ…アラカシに付く



⑰オニグチの仲間…詳細不明、オニグチの仲間は食可が多い。



⑱コフキサルノコシカケ…胞子が付近に飛んで赤褐色に染まる。薬用にされる。がんにも効く？



⑲コノハシメジ



⑳キヒダタケの仲間…イグチ科、管孔ではなくひだを持つ。アカマツの樹下。



㉑ヒイロタケ…キノコ染めの染料としてよく利用される。雨にさらされたり古くなると白っぽくなる。



㉒アズマタケ…動物の糞状。病原菌、タバコウロコタケの仲間。



㉓カワウソタケ…サクラに付く。見た目がカワウソの皮に似る？



㉔マツオウジ…ヒラタケ科、松の枯れ木に発生。



㉕ニガクリタケ…モエギタケ科、強い苦味があり猛毒。



㊼イカタケ…幼菌と老菌

もともとの原産地は台湾、東南アジア。最近この一角に木材のチップを入れて整備をした。材が東南アジアからの輸入品の可能性あり。胞子等が混入していたか？

参考写真 2026.9.27 同場所



4.当日配布資料

秋の自然観察会 ～京都御苑のキノコ～ 資料 2026.10.18

モリノコダマタケ(森木霊茸)

Bryoperdon acuminatum(ブリオペルドン・アクミナタム)

ホコリタケ科

2023 年、日本新産種のホコリタケの仲間のキノコとして報告されました。

「木霊」は「森の精霊」を意味する言葉です。こんな素敵な名前を持った貴重なキノコが、京都御苑にも生息しているのです。



樹幹に着生したコケ(蘚類)の群落上に生えています。

2026.6.28

京都御苑

モリノコダマタケの子実体はとても小さくて(数ミリ程度)、卵型～円錐形、水滴のような形をしており、柄はありません。そして、表面(外皮)はグラニュー糖を塗したような刺で覆われています。近年、菌類がコケと栄養をやり取りするなど、何らかの関り(共生、寄生など)を持っていることが分かってきま



したが、モリノコダマタケとコケの関係はまだ完全には解明されていません

チャセイヨウショウロ(茶西洋松露)

Tuber tomentosum(トゥベル・トメントスム)

セイヨウショウロ科

2025 年 6 月、「京都御苑きのこ会」が開いた観察会で直径 2cm ほどの菌類らしき塊が見つかりました。

研究機関に DNA 解析を依頼した結果、白トリュフの一種である、チャセイヨウショウロと判明しました。京都御苑の自然の豊かさを示す大発見でした。



発見当時の様子です。一見、石ころのように見えます。



関西テレビに出演したチャセイヨウショウロの「標本」。断面はマーズル模様です。

チャセイヨウショウロは日本国内に自生するトリュフの一種として、2021 年に新種発表されました。関東より西の地域に広く分布し、分子系統解析により、ヨーロッパや北アメリカの食用トリュフと近縁であることが分かっています。

イカタケ(烏賊茸)

Lysurus arachnoideus(リスルス・アラクノイデウス)

スッポンタケ科

2026 年 9 月、京都御苑で発生していることが確認されました。京都御苑では、初めての発生でした。

イカを逆さまにして地面に突き刺したような、ユニークな姿をしています。



イカタケの足元に見えている白い卵のようなものは、イカタケの幼菌です。

この卵を割って、中からイカタケが伸び出てきます。

広げた腕の中心に黒いイカ墨のようなものが見えます。この黒いイカ墨のような液体には、イカタケの胞子が含まれています。

イカタケの胞子は、このイカ墨を舐めにやってくるハエなどの昆虫によって運ばれ、新たな場所で命を

繋がります。

イカタケは台湾や東南アジアなど、主に熱帯に分布するキノコです。京都でも過去に発生例の報告はありますが、非常に稀でした。今年、京都御苑で発生したということは、やはり温暖化の影響なののでしょうか…。

昨年(2025)の観察会でみられたキノコ



コガネキヌカラカサタケ(幼菌)



ナラタケモドキ



イボテングタケ



ヒラタケの仲間



マゴジャクシ



ツルタケ(幼菌)



落ち葉を食べるキノコ



チチアワタケ

メモ

☆◇これからの自然観察会の予定

2026 年 11 月 22 日(日曜日) 秋の自然観察会(植物)

2027 年 2 月 7 日(日曜日) 野鳥観察会